

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3271500344		
法人名	株式会社 アミーゴ島根		
事業所名	グループホーム 雲南・ゆりさわ		
所在地	島根県雲南市三刀屋町伊賀屋40-6		
自己評価作成日	平成27年3月11日	評価結果市町村受理日	平成27年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai gokensaku.jp">https://www.kai gokensaku.jp</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成27年3月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ゆったりと穏やかに、入居者様のペースに合わせて、さりげない気配りをし、和気あいあいと笑顔の絶えない暖かい施設であり、入居者様とともに喜びを共有し、一緒に楽しめるように職員との関係性を大切にしています。地域とのかかわりを大切にして、施設周り散歩を日課とし近隣の方との交流をしています。ご家族様に気軽に来所していただき、外出や外泊も自由にできるオープンな環境づくりをしています。医療面では、看護師(非常勤)を配置し、協力医療機関と常に連携を取り、入居者様の健康管理を行っています。認知症対応型共同生活介護事業所として入居者様に安心して、安全に生活していただけるよう、職員は入居者様の状況を把握し、情報を共有し、問題解決を速やかに解決できるよう努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平成16年10月オープンに丸10年が経過。地区の奉仕作業への参加やイベントでの行き来を続けており、少しずつ地道に地域との関係を楽しんできたことが伺える。同行域内には毎年有料老人ホーム等の新しい収容施設ができており、利用者の異動があり、全体的な介護度は以前より軽くなってきている。毎日の日課として歩行訓練を兼ねた散歩を行ったり、ドライブや買い物、食事等での外出の機会をできるだけ増やしており、より活動的になるよう取り組んでいる。以前より数件の看取りを経験していることもあり、利用者家族の施設への信頼感も強く、現在も退院してターミナルをここで迎える利用者がある。ホールでみんなで見守る形で対応しており、家庭的な雰囲気が心地良く感じられた。これからも計画的に研修を進め、個々のレベルアップに繋げることで介護保険の変革に対応していただきたい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、日々、理念を確認しながら支援できるよう取り組んでいます。	開所当初からの理念を継続している。新人職員には、唱和する形にしているが長すぎるので簡潔にと検討中。業務の中で話をするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	晴れた日を日課として、施設周りの散歩を行っています。その際、気軽に挨拶をしたりして交流させてもらっています。また、自治会総会への出席、自治会の夏祭りへの参加、そして清掃作業にも参加させてもらっています。	地域の奉仕作業やイベント、自治会の総会にも参加を続けており、気心の知れた良い関係が築けている。大正琴、手品、3B体操の指導等のボランティア利用や職場体験の受け入れを行い地域との繋がりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設事業所を利用されているご家族様を通じて相談援助を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況、サービスの実際、行事の実施等について報告を行い意見交換を行っている。その都度、議題を設定して協議し、意見交換を行っている。	家族代表、地域関係者、広域、包括等から参加があり、併設の小規模やデイと合同で会議を開催している。利用者状況や行事、研修等の報告を行い、意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報提供や相談事項など常に連携を摂れる体制を心掛けている	広域や包括からは毎回会議に参加があり、利用者の紹介も受けている。日頃から連絡を密にして情報交換に努めたり、グループホーム同士で職員の交換実習も行っており、良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼、ミーティング、職員会議のとき、身体拘束の事実がなかったことを確認し、身体拘束をしないケアを実践している。	広域主催の研修に参加したり、朝礼等で話合っている。以前センサーマットを利用していたが他での対応を検討し実施することとし、中止に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関するマニュアルに基づいて、職員間で確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状で必要としている入居者様はおられませんが、今後、勉強会は必要と考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前説明の上に、重要事項をわかりやすく説明し、理解していただけるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも気軽にお話しできる環境を作り、ご家族様への連絡を密にするよう心掛けている。入居者様・ご家族様の要望、意見をできる限り実施で凝るよう心掛けている。	意見箱を設置したり、敬老会の日の行事の際に家族会を開催し意見を聞く機会としている。毎月請求書送付に加え、行事の写真に日頃の体調面等様子を詳しく知らせることとしており、家族関係者の意見を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々の思いを把握し、職員のスキルアップを心掛けている。	特に面談することは行っていないが、管理者や主任、話しやすい人に相談するように指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて、職員が努力できるような環境整備に取り組み介護職員処遇改善等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々が研修目標を立て、勉強会や研修への参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲南地域グループホーム・小規模多機能部会での研修会・他施設実習を通じて、違う目線でサービスの向上、及び相互間の意見交換ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様・ケアマネ、以前の施設等からの聞き取りを行い、情報を収集、ご本人様の状況を把握し、職員と情報を共有し、思いに寄り添いリロケーションダメージの軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いをしっかりと受け止め、困っていること、不安なことを真摯に受け止め、それに対して何らかの返答ができるよう心掛け、より良い関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、入居されている入居者様の様子や雰囲気、施設の環境情報などを理解していただき本人様とご家族様に安心、安全な支援を提供できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生活の場」であることを意識し、入居者様を「生活の主体者」として共に生活する中で、残存機能を活かし、笑顔の絶えない暖かい関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連携を密にして、現況に変化があった時には必ず報告をし確認を取っている。面会時、電話連絡には、現況報告をし、情報を共有し、ご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や馴染みの方がいつでも来所できる環境を整え、ゆっくり過ごしていただけるよう支援に努めている。馴染みの場所への訪問も実行している。	利用者の意向を聞き、自宅への外出や墓参りを家族にお願いしている。正月の外泊を希望された場合は施設からお連れする形で実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様のプライバシーを尊重し、共同生活が継続できるよう、職員が間に入り、入所者様同士がより良い関係づくりができるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談・援助の体制にあることを説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中で、思い・意向・希望をくみ取れる体制、雰囲気作りを行い、入居者様の情報・言動・様子からその人の思いを把握できるように努めている。また、本人様主体でできることは事はしていただくよう支援を行っている。	日頃の生活の中から感じ取るようにしているが、家族関係者からは面会時に意見を聞いたり、面会が難しい場合は電話で聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所当初、ご家族様からの情報を得て、書面に残し、ミーティング、個々のカンファレンスを行職員間の情報を共有し、介護サービスに反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の現況を申し送り、朝礼にて職員間で共有し入居者様の心身の状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の能力維持のために、カンファレンスにて、個々のリハビリ計画を計画、自立支援を視野に入れた介護計画に反映している。	毎月1回ミーティング時にモニタリングを実施している。担当を含め職員で話しあい計画作成を行っている。	できるだけ多くの方の参加で担当者会議が実施され、より実態に合った計画作成に繋がるよう検討いただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個別の記録を残し、職員間の情報を共有し介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様の状況に応じてその時のニーズに柔軟に対応できるよう努めている。(医療面、本人様ご家族様からの申し出、要望等]		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとの行事を計画し、外出の機会をとり、茶会・食事会を楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様や、ご本人と相談し、連携の取れるかかりつけ医の協力が得られるよう体制づくりをしている。24時間対応していただけるよう協力をお願いしている。	定期的な往診や夜間、緊急時にも対応可能な協力医を確保している。歯科や精神科等の受診の介助も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子や体調の変化は経過記録・周知できる書面に残し、看護職員とのカンファレンスと医療機関との連携を図り、情報を共有し、健康な生活が維持できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	健康状態を把握し、病気の早期発見に努め、入院された場合の情報提供や早期退院ができるよう病院関係者とも情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ご家族様・かかりつけ医師・看護師・介護職員との話し合いをし、事業所でできることを十分に説明しながら今後の方針を共有し、ともに連携して支援に取り組んでいる。	家族関係者の思いを基に、ドクターを含めて話し合いを繰り返しながら、前向きに取り組んでいく意向があり今までも数件の看取りを経験している。現在も、ここでの看取りを希望し退院したケースがあり対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、職員全員にマニュアルを基本として、シミュレーションは行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消火、通報・避難訓練を実施し、消防職員の指示を仰いでいる。ただ、地震・水害等の災害に関しては、地域との連携が構築できるよう参加を促している。	地震があったことから市からも地域での総合的な避難訓練をするように話があり、施設に於いても同様に話がある。地域での取り組みには積極的に協力する意向を持ち、施設内の訓練を定期的実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様1人ひとりを尊重し、その人に会った言葉かけ、対応で誇りやプライバシー保護に配慮している。	接遇研修を実施したり、個人情報についても会議やミーティングで取りあげている。入室時やケアの場面での声がけに注意するように話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の入居者様の支援の中で、本人様の思いをしっかり受け止め、自己決定ができるような声掛けを行ったり、選択の場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の主体者は、入居者さまであり、その人のペースに合わせ、行動してもらっている。その人の残存能力に合ったものを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人様に選んでもらったり、帽子・スカーフを着たりと本人様に合った、季節に合わせた身だしなみを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の口腔体操を行い楽しく食事をしていただけるようにしている。下膳はできるだけ本人様をお願いしている。	袋ごと温める食材を利用しており、汁物や副食はここで作ったものを足して提供している。日曜日の昼のみ全部作るようにしており、他にもお好み焼き、ホットケーキ等のおやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量、栄養のバランス、食事形態を把握し習慣に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を十分に認識しており、毎食後、その人に会った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の状況を見ながら、その人に応じた排泄誘導を行い、声掛けを行っている。排泄のパターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。夜間は安眠できるように支援している。(リハビリパンツ使用の方、現在布パンツ・パット使用)	紙パンツやパットの利用を検討することで、紙おむつ等にかかるコストが少しでも下げられるように取り組んでいる。トイレ誘導を検討したり自尿を促す状況をつくるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄状況を把握し、水分摂取を促すために、飲み物の種類を多くし、おなかの運動を促し、看護師・かかりつけ医との情報を共有し、個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は、夕方ごろと決めています。状況に応じた時間帯に入浴ができるよう心掛けている。	できるだけ夕方に入るようにし、入浴後にはパジャマに着替えるようにしている。ターミナルで入浴が難しい場合は清拭対応をし、車いす利用者も浴槽に入れるように介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の思いを尊重し、時間に関係なく、休息したり、睡眠をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬一覧ファイルがあり、職員はいつでも確認できる。9名様の薬の服用があり、誤薬がないように確認して服用をしている。また症状の変化について、看護師・かかりつけ医との連携を密に知っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	具体的な役割をもって出来ることをしていただき、此処に「居場所」があることを理解し、その人の生活歴や、力を活かした支援に心掛けている。職員と一緒に喜び、楽しむことが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩を行っている。計画を立て、季節に応じた野外活動を行っている。ご家族様との外出も実施している。	天気の良い日には施設周りの散歩を歩行訓練を兼ねて毎日繰り返し行っている。食事会とお茶会をひと月ごとに繰り返ししたり、買い物やドライブにもできるだけ出かけたっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所でお金の管理はしていますが、買い物等に出かけたときは、支払いをお願いし、希望に応じて自由にできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など本人様の思い、希望に応じて対応できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある貼り絵や壁紙を張り、落ち着いた雰囲気を提供できるよう心掛けている。居心地の良い環境を維持できるよう気配りを行っている。	あまり広くはないが施設中央部には中庭があり、花木からは季節が感じられる。壁には季節ごとに作品が飾られ雰囲気を出している。施設横には交通量がある2車線の道路が走っているが、騒音はほとんど感じない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の思い、プライバシーを尊重し、自由に過ごせる居場所を工夫し、安心安全に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段着でいられる生活を支援し、本人様の生活スタイルに合わせて居心地良く過ごしていただけるよう工夫をしている。	積極的に持ち込みを薦めているがあまり多くは持って来られない。写真を飾ったりしてその人らしさを出すように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることはしていただけるよう声掛け、誘導、見守りをしている。(一人で居室トイレで排尿できるよう動線を確認し、ベットの位置、手すりの位置を工夫している。)		